

新年にあたって

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
会長 小池 広靖 CMA



新年おめでとうございます。

いよいよ待望の新NISA制度が始まり、「資産運用立国」の実現に向けたスタートが切られました。数十年間にわたり貯蓄され続けてきた巨額の家計の預貯金が動き出し、変革の時を迎えます。

「資産運用立国」という構想は、成熟した日本の経済・社会が高齢化や社会保障を解決するために、経済サイクルからの必然で生まれてきたように感じています。この構想の目指すところは、成長と分配の好循環の実現です。将来性のある分野へより円滑に資金を流すことで、資産を形成する側にも大きな恩恵をもたらし、好循環を生み出すことを目的としています。その資金の還流は、国内の預貯金にとどまらず世界のリスクマネーを意図しています。世界中の投資家の資金が日本の株式市場を中心とした金融資本市場に流れ、一方で日本の投資家の資金が、国内と世界の有益な成長分野へ流れていく。この連続的な営みの果てに目指すのは、日本が世界のリスクマネーの中心としてのポジションを確立することです。実現に向けて政府が掲げる施策は、国民の資産形成促進のほか、運用力強化、投資先としての魅力向上など多岐にわたります。一過性のブームではなく息の長い取り組みとして、業界全体に大きな期待が寄せられています。

このように、前例のない新しい動きの中で、われわれ証券アナリストが果たすべき社会的役割も大きく変化していきます。資産運用の主体は、これまでの限られた一部の投資家から、個人投資家を含む、より多くの投資家へと拡大します。つまり、精緻な分析や評価などのアウトプットは、これまで以上にユーザー目線を意識することが求められます。また、資産運用立国において裾野拡大が期待される国民への金融経済教育の強化は重要性を増していきます。自分の投資したお金がどのように役立つのか、どのように国力の強化につながり、どのような恩恵が受けられるのか、といったインベストメントチェーンの枠組みを理解していただくことが肝要でしょう。

当協会としても、金融のプロフェッショナルとして日本の資本市場の発展に貢献するとともに、協会の持つ知見を幅広い投資家層に提供することで「資産運用立国」に向けた貢献も期待をされるところです。

こうした背景もあり、資産形成を推進する金融機関の職員向けに新しい資格制度である「資産形成コンサルタント」資格の提供を開始することとしました。この「資産形成コンサルタント」資格は、これまでご提供してきた証券アナリスト基礎講座を進化させ、顧客との接点を担う金融機関の職員の皆さまが、資産形成・運用について必要な知識をしっかりと身につけることができるよう、より実践的な内容に仕上げています。具体的には、顧客本位の営業の心構えを皮切りに、資産運用の基礎概念、ポートフォリオ分析などのエッセンスを織り込みました。市場環境に一喜一憂しない“長期分散投資”を多くの国民に根付かせるためにも、本資格制度の果たす役割は大きなものと感じております。

現在、CMA資格を保有している方は約29,000名いらっしゃいます。大きな変化の中で、CMAのそれぞれが担う社会的役割は多様な広がりを見せ、ますます重要になっていくと実感をしており、ますますの活躍に期待が膨らむばかりです。

昨年、日経平均株価は33年ぶりの高値水準を更新しました。この背景には堅調な業績や割安感など様々な要因がありましたが、海外投資家による日本への投資拡大の動きは私の肌感覚とも一致するものがありました。つまり、循環的に選好されてきた日本企業の経済活動は、未来の構造的な変化への期待とともに、再び本格的に中長期投資の対象となり始めたと考えています。適切な判断のもと積極的かつ効果的に情報を発信することで、今後もより多くの海外投資家に日本の資本市場の魅力を正しく伝えることができるはずです。まさに証券アナリストの腕の見せ所です。企業価値向上を目的とした影響力あるエンゲージメント活動、さらなる英文情報開示の拡充への貢献など、グローバルな金融都市としての責務もより一層意識していただきたいと思います。そうした協会の取り組みが「資産運用立国」、成長と分配の好循環という実現に向けた道筋ではないかと思えます。

2024年は甲（きのえ）辰（たつ）年です。甲は物事の始まりを意味し、辰は活力旺盛で大きく成長する年と言われています。多くの関心が集まる中で、私たちは変革を通じて、未来に向けた価値創造を成し遂げなければなりません。本年の皆さまのご健勝とますますのご発展、一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。